

第1回肥料の流通合理化に関する検討会 議事概要

1. 日時：令和元年12月26日（木）15:00～16:35
2. 場所：農林水産省生産局第1会議室
3. 出席委員（敬称略）：吉永浩（横本耕一郎委員代理）、吉田正宏、富田健司、山森章二、齋藤一志、鈴木良典
4. 概要
 - ・ 開催要領（資料1）に基づき、委員の互選により山森委員が座長に選出された。
 - ・ 「今後の検討の進め方（案）」（資料2）について案のとおり了承された。
 - ・ 「作業部会委員（案）」（資料3）について案のとおり了承された。
 - ・ 国土交通省から「トラック運送業の現状と課題について」（資料4）、事務局から「肥料流通の現状・課題について」（資料5）の説明の後、意見交換。

【意見交換における主な発言】

＜肥料の運送の荷姿等について＞

- ・ 肥料は安価で重いため運送業者に敬遠されるが、現状では、当社に配送される肥料もほとんどが10トン車でバラ積み。一方、パレット化を進める場合、船便を利用する際にはパレットでは輸送できないという問題があることにも注意が必要。また、肥料は1パレット60袋を使い切るのに時間も掛かるため、レンタルパレットではコストが嵩み、（購入しても）パレット回収率を上げるのは難しい資材だと思う。このため、パレット以外の方法も検討する必要があるのではないか。例えば、育苗土で一部用いられているワンウェイの網状のシートを使えば、パレットよりコストが抑えられ、農家負担も抑えられるのではないか。【齋藤委員】
- ・ 大規模農家はフレコンの利用や肥料工場からの直送などで配送の効率化に取り組まれているが、全農としては小規模農家への対応もあり、県域物流拠点の整備等による物流合理化を進めているところ。今後も複数県をまとめて配送する等により更に合理化を進めていきたい。なお、肥料は重量物であり使用時期も集中することから、農家段階までのパレット化は必須の課題と認識している。【富田委員】
- ・ 農家の大規模化に伴い、フレコンの需要は将来的に増えてくるとは思うが、現時点では一部に限られるため、特殊な銘柄や少量のフレコンの注文に対しては20kg袋に詰めたものを破いて詰め直しているなどの非効率な実態もある。【吉永委員代理】
- ・ 現在は農家の高齢化などもあり、20kg袋から15kg袋に置き換わってきている

(肥料成分を濃縮し 20kg 袋と変わらないものもある。)。フレコン化も賛成だが、小口で商売している小売店も多いため、そういう方々への対応も必要。【吉田委員】

<トラックの待ち時間対策について>

- ・ メーカーもトラックの待ち時間が長くないよう事前予約等による効率化に取り組んでいるが、肥料は季節商品であり、例えば水稻基肥用肥料は3、4月に出荷が集中するため、この時期は工場に荷受けを待つトラックが並ぶことになる。これを全て荷主のせいにされると厳しい。例えば、トラック事業者から荷受け日の前々日くらいまでに銘柄や数量の連絡があれば、事前にバックヤードに準備してすぐに積み込めるが、当日や前日の夕方に連絡があることも多く、その場合、事前予約トラックの後回しとなるため待ち時間が掛かり、お叱りを受けることがある。【吉永委員代理】
- ・ 配送時期の集中は避けられない面もあると思うが、引越しの例で言えば、需要の分散について様々な業界に当省から働きかけを行っているところ。全体の仕組みを改善するために、荷主と運送業者が互いにどうすれば克服できるかを品目ごとに地道に考えるしかないと考えている。他の品目でも取引適正化に向けた検討会を開催しているが、その中では、リードタイムを少しでも長くするとか、事前に出荷情報を共有するだけで負担が軽減されるなどの良い事例も出てきている。当省では、荷待ちを発生させる悪質な業者がいる場合は、働きかけなどの対応が必要であるが、基本的にはそれぞれの事情も踏まえつつ、品目ごとの特性を踏まえ対応していくことが必要。【国土交通省】